

010901セメント・同製品製造業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物 (小)	事故の 型	労働 者規 模
2022	1	10 ～ 12	コンクリート製品用の砂を屋根付きのホッパーに保管していた。災害発生当日、砂の表面が氷結していたため、被災者は一人でホッパー内の砂の上でハンマー等で氷結した砂を破砕する作業を行っていた。事業主は被災者が破砕している最中にホッパー出口のベルトコンベアを可動させてホッパーの砂を排出していたところ、出口から被災者の足が出てきた。消防隊がホッパー内で砂に埋もれていた被災者を救出したが、窒息により死亡した。	418	1	1～9
2022	5	12 ～ 14	生コンの原料を運搬するコンベヤーのベルトとプーリーもしくは、アングルとの間に被災者が右腕の上腕まで巻き込まれた状態で昼過ぎに同僚に見されたもの。発見時には既に被災者に意識は無かった。	224	7	30～ 49
2022	10	10 ～ 12	DC工場（ドライキャスト製法の略：生コンを強力な振動とプレスにより一瞬で成型することができる即時脱型製法）において、コンクリート製品製造のための加圧成型機の中に身体を入れていたところ、上部フレームが下降し、上部フレームと型枠の間に頭が挟まれ負傷したものの。発見時、被災者は意識不明で病院に救急搬送されたが、2日後に、死亡が確認された。	169	7	30～ 49
2022	10	10 ～ 12	故障したトラックをフォークリフトで牽引するため、被災者は牽引用のワイヤーロープを持ち、トラックとフォークリフトの間に屈んで立っていた。ロープが届く距離までフォークリフトをトラックに近づけようと、社長がフォークリフトを後行させたところ、アクセルを踏みすぎ、被災者の頭部が両車体後部の間に挟まれ、死亡したものの。	222	6	1～9

2021	3	16 ～ 18	コンクリートブロック成型機の型を代えるため、エアを抜いてボルト締めをしていたところ、成型機上部の下降を抑えるための措置を取らなかったため、成型機上部が下降し、成型機上部と下部の間に被災者の頭が挟まれ負傷したもの。被災者は病院に搬送されたが、頭部外傷による心停止と診断され、死亡が確認された。	169	7	10～ 29
2021	3	14 ～ 16	コンクリートミキサ車の後部ステップから墜落し、後頭部を打ったもの。	221	1	10～ 29
2021	4	16 ～ 18	ミキサー車運転手である被災者は、終業時刻前に、自車の運転席とミキサーとの間に設置されている水タンクの上（地面からの高さ1.7メートル）において運転席の屋根を洗車中、水タンク上から墜落し、意識不明となった。病院へ搬送され治療中に外傷性くも膜下出血により死亡した。被災者は保護帽や墜落制止用器具を着用していなかった。	221	1	30～ 49
2021	5	16 ～ 18	生コン工場で、高圧洗浄機を使ってトロンメル（生コンを砂利、砂、水に分離する装置）を洗浄しようとしていた労働者が、回転中のトロンメルに上半身を巻き込まれて死亡したもの。トロンメルの側面は鋼板で囲われており、回転体と接触できないようになっているが、被災者が発見されたとき、鋼板の点検口（縦1.1×横0.76m）が開き、上半身が点検口に入っていた。	169	7	10～ 29
2021	7	10 ～ 12	コンクリート製電柱を製造する工程における、型枠内の鋼線を引っ張り、緊張機の油圧ジャッキにより圧力かける作業において、被災者は、U字型の鉄製プレートを手を持ち、型枠端部に設置しようとした。その際、油圧ジャッキのシャフトが折れ、当該油圧ジャッキと型枠が切り離れたために、型枠端部に圧力がかかり、U字型の鉄製プレートにも力が加わった結果、当該鉄製プレートが垂直方向に跳ね上がり、被災者の顔面に直撃した。	169	4	50～ 99
			被災者は工場の敷地内でトラックミキサーの修繕作業を行っていたが、同			

2021	8	14 ～ 16	日夕方、被災者が上記トラックの傍で地面に倒れているのを他の労働者が発見した。病院へ搬送された被災者は、肋骨、後頭部を骨折しており、搬送後、意識不明の状態集中治療室で治療を受けていたが、後日死亡したもの。	221	1	1～9
2020	1	8 ～ 10	工場において、アジテーター車で生コンを建設現場に搬入するために、伝票を取りに行くため、門の手前で停車させ下車したが、その後、アジテーター車後部で倒れていた状況で発見されたもの。災害発生直前の被災者の行動は目撃者がいないため不明であるが、被害の程度からして、アジテーター車後部の荷台及びステップに乗っていて墜落していたものと推定される。	221	1	10～ 29
2020	4	16 ～ 18	新型コロナウイルス感染症により死亡したもの。	911	90	10～ 29
2020	6	8 ～ 10	生コン製造事業場のミキサー車の洗浄後の水処理設備において、ポンプセンサーの配線補修を電気工事業者1名が行っている際に、補修箇所に隣接する停止状態のトロンメル（直径約0.9mの円筒状）の上に位置する配管上にて被災者が補修作業を見ていたところ、タイマー機能（2時間毎間欠運転）でトロンメルの回転胴が回転始め、驚いた被災者は墜落して、回転胴とトロンメル側壁内側に挟まれ死亡した。	169	7	1～9
2020	6	8 ～ 10	被災者はコンクリートを配送するため、コンクリートミキサー車にて建築現場に向かい、待機していたコンクリート圧送車と接続し、現場作業員がコンクリート打設を開始したところ、コンクリートが流れてこなかったため、ミキサー車に向かったところ、被災者があおむけに倒れているのを発見した。大学病院にて頸椎脱臼の治療を行っていたものの、後日肺炎により死亡した。	221	1	10～ 29
2020	8	12 ～	被災者は、午前中よりコンクリート製品運搬・結束・梱包作業のため、炎天下の下でフォークリフトの運転業務に従事していた。昼休憩となり、自家用車内で弁当を食べるため、事業場の駐車場へ向かったが、昼休憩時間	715	11	10～

		14	を経過しても職場へ戻らなかったため同僚が捜した所、駐車場の端でうつ伏せの状態で見られている所を発見されたもの。			29
2020	11	10 ~ 12	被災者は、造成工事現場にコンクリート製間知石を積載形トラッククレーンで運搬し、工事現場に近接した道路に駐車した。工事現場の重機で荷卸しする前に、邪魔となる自車ジブを車体右側の操作レバーで前部へ旋回中、傾斜8度の坂道であったため無人の車体が後進し、車体と背後の擁壁の間にはさまれたもの。	212	17	10~ 29
2020	12	14 ~ 16	生コンクリートプラントにおいて、配送を終えたコンクリートミキサー車が場内の洗車場にてミキサー内の洗浄を行っていた。被災者は、コンクリートミキサー車が停止している前方に配置されている排水溝の清掃作業を実施していたところ、ミキサーの洗浄を終えた運転手が洗車場からコンクリートミキサー車を前進させたため、コンクリートミキサー車にひかれたもの。	221	7	30~ 49
2019	5	10 ~ 12	コンクリート成型機の内部に残っていた残滓を除去するため、成型機の型枠を保持装置で高さ2メートルの位置に持ち上げて移動させていたところ、その下枠が外れて落下し、被災者の頭部に当たった。	164	4	30~ 49
2019	5	12 ~ 14	屋外にて、出荷する製品の補修作業を行っていたところ、被災者の背面に置いてあった雨天作業用テント（当日の作業では使用していない）が、強風の影響から倒れ、製品とテントとの間に挟まれた。雨天作業用テントは、幅約9m、長さ1.1m（蛇腹式で縮めた状態）、高さ約2.5m、重量不明（確認中）、車輪は片側4個、固定はされていない。	419	5	10~ 29
2019	7	10 ~ 12	コンクリートミキサー車の生コン投入口（ホッパ）からの墜落。被災者は、ホッパからドラム内に入りドラム内面に付着したコンクリートを研った。被災者は、当該作業を終え、ホッパから出ようとしていて、ホッパから上半身を出した状態であったところ、突然痙攣を起こしてのけ反り、のけ反った姿勢が故に自身の重心位置がホッパ外になってしまい、ホッパから3.08メートル下のスロープに墜落した。	221	1	10~ 29

2019	11	10 ～ 12	被災者は工場内において床の掃除をしていた。一方、別の者がフォークリフト（最大荷重3.5トン）でコンクリートホッパーを「鋼製型枠」へ向けて前進で移送していたところ、傍らで、別の型枠の準備作業をしていた者がフォークリフトの下部に被災者が巻き込まれているところを目撃し、フォークリフトを停車させたが、被災者はバックレストの後方の下部に頭部、体が車体の下にある状態で発見された。	222	7	10～ 29
2019	11	6 ～ 8	生コンプラント工場敷地内において、トラクターショベルを使用して作業中であった同僚が、トラクターショベルからドラグショベルに乗り換えるため、トラクターショベルを構内の隅に後進で移動させようとしたところ、近くを歩行中であったコンクリートミキサー車運転手（被災者）に接触して右後輪で轢いたものである。	141	7	10～ 29
2019	11	10 ～ 12	コンクリートパイルを製造する工程において、天井クレーンを使用して荷（蒸気養生槽から取り出したコンクリートパイル及びその型枠）を運搬していたところ、床に置いてあった別の型枠のボルトを緩める作業を行っていた被災者が型枠と荷の間にはさまれ、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	211	7	50～ 99
2019	12	10 ～ 12	被災者が、木造家屋建設工事現場にミキサー車を停車し、当該現場において、基礎コンクリートの打設作業が行われていた。打設作業終了後、被災者がミキサー車を停車位置から4m程前進させ、エンジンを停止させず、サイドブレーキも使用しない状態で運転席を離脱したところ、後方にミキサー車が逸走した。逸走に気づいた被災者が、ミキサー車後方から人力で押し返そうとしたが、ミキサー車とポンプ車にはさまれた。	221	7	10～ 29
2018	1	8 ～ 9	被災者は、砂利製造工場内にて、汚泥をこして水分を抽出するためのフィルタープレス機を操作していたところ、フィルタープレス機の円型金属板2枚の間に胴体を挟まれた。	169	7	10～ 29
		8	事業場敷地内において、生コンクリート製造工程で排出された砂利を廃棄するため、同砂利の入ったバケットを、フォークリフトのフォークに巻き付けたフック付きワイヤーロープで吊り上げ、フォークリフトのフォーク			10～

2018	2	～ 9	をほぼ最大限まで引き上げた状態で走行していたところ、フォークリフトが横転し、運転席から投げ出された被災者頭部にヘッドガード支柱が激突し死亡したもの。	222	2	29
2018	2	～ 12 13	生コン製造プラントにおいて、ベルトコンベヤの洗浄作業を行っていた被災者が、昼休みになっても戻らないため、同プラント内を探したところ、ベルトコンベヤと下方のホッパーとの間に挟まっているのを発見された。	224	7	10～ 29
2018	2	～ 12 13	被災者は間知ブロックの出荷前作業で使用する機械（搬送装置）の清掃を行っていたところ、機械と機械可動部（プッシャー）の間に身体を挟まれ、死亡した。	169	7	10～ 29
2018	6	～ 16 17	工場内でクレーン（つり上げ荷重4.8t）を使用しコンクリートブロック（高さ約2m、幅約1.3m、重さ約1.6t）を反転（立てた状態のものを横にするもの）する作業を被災者が単独で行っていたところ、当該コンクリートブロックが転倒して被災者が下敷きになり死亡したもの。	211	6	10～ 29
2018	7	～ 8 9	コンクリートブロック生成機の、材料を貯蔵・区分するサイロの上部に備え付けられているシャトルコンベアで不具合が生じたため、被災者がレーン脇の手すりから身を乗り出して作業していたところ、シャトルコンベアが動き出し、シャトルコンベアの車輪と手すりに挟まれた。病院に搬送され、治療を受けていたが後日、死亡した。	224	7	30～ 49
2018	8	～ 16 17	新リサイクル工場内において、被災者はフライアッシュとセメントを混合するミキサー内の清掃及び給油作業を行っていたが、他の作業員がミキサーの運転開始操作を行ったため、被災者がミキサー内で挟まれたもの。	162	7	10～ 29
2018	8	～ 8 9	生コンクリート製造用砕砂のストックヤードの下部に設置された排出用ホッパーゲートの交換のため、作業員3名がストックヤード内に入り、ホッパーゲート付近の砕砂をスコップ等で除去する作業を行っていた。当該除去作業が終了し、ストックヤードから出ようとしたところ、ストックヤードに残っていた砕砂が崩壊したため、崩壊した砕砂に被災者が埋まり、死亡したもの。	523	5	10～ 29

2018	10	8 ～ 9	被災者はコンクリート製品であるボックスカルバートを製造を行う作業を一人で行っていた。工場長が現場巡視中にボックスカルバートと型枠（高さ2.1m、幅2.86m）との間に頭部がはさまれた状態で意識のない被災者を発見した。被災者は救急車で病院へ搬送されたが、後日死亡したものの。	391	5	10～ 29
2018	10	12 ～ 13	橋桁（PC桁）の製作に使用した鋼製型枠を片付けるため、型枠を4段に積み上げ、フォークリフトを用いて運搬していたところ、荷崩れが発生した。門型クレーンでつり上げ、3段目の型枠を積み直した際、2段目の型枠の一部に引っかかったため、つり上げたままの3段目の型枠を押し入れようと型枠の下に頭部を入れて、手で押していたところ、引っかかりが外れ、3段目の型枠が落下し、型枠の2段目と3段目に挟まれたもの。	521	7	10～ 29
2018	10	12 ～ 13	被災者がミキサー車を運転し県道を走行中、対向車と正面衝突した。	221	17	10～ 29
2018	12	8 ～ 9	林内道路の舗装現場（道路幅約3m、道路勾配約18%）において、生コンクリートの荷卸し作業のためにミキサー車（アジテータ・トラック）を駐車し、被災者が運転席から降りて後方のステップに上がっていた際に車両が動き出した。運転席は無人で、停車させることができなかったことから車両は山肌に乗り上げ横転し、被災者は車両の下敷きとなった。	221	6	1～9
2018	12	10 ～ 11	工場に設置されているスクリーコンベヤー付近の清掃作業中、不意に動き出したスクリーコンベヤーに両大腿部付近まで巻き込まれた。	224	7	1～9
2017	1	8 ～ 9	被災者は、事業場プラント内において、10tダンプトラックを運転し、碎石を運搬する作業を行っていた。同トラックの荷台に碎石を積んだ状態で、碎石でできた小山の斜面を後退させながら登っていたところ、被災者は運転席から地面に墜落し、無人状態で斜面を下ってきた同トラックの右側前輪及び後輪に胴体を轢かれ、被災した。	221	7	10～ 29
			被災者は、港の沖合に係留している台船を補修するため、同港の岸壁を小			

2017	1	8 ～ 9	型船舶で出港した。その後、同港内で、エンジンがかかったまま無人で漂流している小型船舶が発見された後、海面にうつ伏せの状態で浮かんでいる被災者が発見された。	239	10	10～ 29
2017	2	8 ～ 9	コンクリート製品製造での脱型作業時に、型枠下方にあるボルトをインパクトレンチを使用して取り外す作業をしゃがんで行っているところに、側方にある別の型枠が誤作動により移動し、型枠の足場と型枠の足場に胸を挟まれた。	229	7	10～ 29
2017	2	10 ～ 11	被災者を含む3人で、L字型コンクリート製品（重量約7.2t）の外壁材を工場内に展示するための運搬作業を行っていた。橋形クレーン（10t）で製品を展示するための場所まで移動させ、地上に降ろし、同僚が脚立梯子を使い上部に掛けられた玉掛用具を外した後、製品が倒れ脚立梯子を下で支えていた被災者は橋形クレーンのサドルと製品に頭部を挟まれ死亡した。	611	5	50～ 99
2017	3	8 ～ 9	工場内のコンクリート搬送設備の操作スイッチを押して搬送用トロリー（かご上の台車）を遠隔操作で動かそうとしたが作動しなかった。同僚に操作スイッチを押して作動させ、かつ社長を呼びに行くよう指示をし、自らはトロリー点検台に登って配電盤を調べていた。同僚が戻ってきたところ、被災者が約3m下のピット上に倒れているところを発見された。	229	1	10～ 29
2017	4	12 ～ 13	コンクリートミキサー車（ドラム内）の洗浄液を水、砂、砂利に分離させる機械（トロンメル分級機：横型ドラム式）を上部から清掃していたところ、回転部に巻き込まれた。一人作業であった。砂利を分離させる網目に砂利が詰まってきたので、それを除去するためエアピッグで作業を行っていた或いは行おうとしたところ、当該機械が回転し始めて巻き込まれた。起動は、タイマー起動であった。	169	7	10～ 29
2017	4	14 ～	プラントの貯蔵びん内補修工事に立ち会っていた被災者と施工業者の責任者が、ホッパーの排出ゲートが開いた状態で排出されていなかった骨材（砂）をスコップでほぐす作業を行っていた。施工業者の責任者が作業道	418	1	10～

		15	具を探しに貯蔵びん内のタラップを昇っていたところ、下方から悲鳴が聞こえ、振り返ると、被災者はヘルメットが見える状態で砂に埋まっていた。3時間後に救出されたが、死亡していた。			29
2017	5	6 ～ 7	被災者はフォークリフトを運転し、幅1925mm、奥行800mm、高さ480mm、重量630kgのガードレール土台用のコンクリート2次製品を5段(約280cm)に積み上げた後、フォークリフトを降りて積んだ製品の状態を確認しようと製品の前に移動したところ、製品が倒壊して最上部(5段目)の製品とフォークリフトの胴体部分との間に頭を挟まれ死亡した。	529	5	1～9
2017	5	10 ～ 11	生コン工場において砂堆積ヤード付近でコンクリートミキサー車の始業前点検を行っていた労働者が突然倒れてきた砂堆積ヤードの擁壁に当たりはね飛ばされ死亡した。ヤード内ではトラクター・ショベルを使用して擁壁側に砂を積み上げる作業をしていた。	418	5	10～ 29
2017	5	8 ～ 9	重量7.2tのボックスカルバートを製作する過程で使用した型枠を解体する際に、横側の型枠(重量推定約800kg)はレールに乗っており、手動によりスライドさせることでボックスカルバートからはずすことができる構造であったが、当該型枠がレールからはずれ、倒れたため、被災者が下敷きとなり、頭蓋骨骨折により死亡した。	419	4	10～ 29
2017	7	10 ～ 11	建設工事現場にミキサー車でモルタルを荷卸し後、ミキサー車後方の高さ2.65mのステップ上で、現場で余ったモルタルをミキサー車に戻す作業を行っていたところ、しばらくして「ドン」という音がし、鉄板上に仰向けの状態で倒れている被災者を発見した。なお、被災者は一人で作業しており、現認者はいない。また、保護帽は着用していたものの、安全帯は着用していなかった。	221	1	10～ 29
2017	8	8 ～ 9	セメント骨材を混合するベルトコンベアの下に落ちた骨材(砂、砂利)を掻き出し、掃除をしていたところ駆動していたベルトコンベアに巻き込まれた。	224	7	10～ 29
			18時30分頃、停泊中のミキサー船内の食堂で、被災者ほか2名の労働			

2017	8	0 ～ 1	者が食事をとり、19時頃各自の部屋に戻った後、翌日、被災者が姿を見せないで捜索したところ、同日18時頃、船尾の海底（水深10m）で発見された。	239	10	10～ 29
2017	11	8 ～ 9	コンクリートミキサー車のシュートに附属されている足かけ（高さ約1.5m）に乗ってコンクリート投入用ホッパー下部にある羽根にガス溶断装置を用いて穴を開ける作業を行っていたときに後部に仰向け状態で倒れ、被災者の後頭部と下にいて被災者を受けとめようとした労働者の前頭部が激突した。被災者は死亡し、下にいて激突した労働者は負傷した。	921	90	10～ 29
2017	12	10 ～ 11	コンクリートブロック用の型枠にコンクリートを打設した後に養生をするため、養生室に型枠（コンクリート及び型枠重量約1.5t）をフォークリフトで積み上げ、コンクリートを均そうと当該型枠に足を掛けたところ、当該型枠が倒れ、倒れた型枠と隣列の下段の型枠の間に挟まれた。	418	5	30～ 49
2017	12	8 ～ 9	マンションのバルコニー用のL字形コンクリート構造物（H1.58m×W0.79m, L4.15m）を、工場内の天井クレーンで吊って検査作業場に移動させた。被災者がL字形の外側でタイルの目地材を手作業で除去し、もう一人の作業者がL字形の内側でグラインダーを用いてコンクリート面の補修作業を行っていたところ、コンクリート構造物が被災者側に横転し、被災者が下腹部を挟まれ、死亡した。	379	6	30～ 49
2016	3	12 ～ 13	被災者は生コン配送業務に従事する運転手で、午前の配送が終了し、昼食をとるため生コン車にカップラーメンをとりにいったところ、運転席から降りようとして後ろ向きに墜落し頭部を地面に打った。その後、午後の配送を行ったが、頭痛のため病院へ向かう途中の交差点で意識朦朧状態となり嘔吐した。病院へ搬送され入院していたが、脳挫傷のため死亡した。	221	1	10～ 29
2016	4	14 ～ 15	生コンクリートミキサー車の運転者が、生コン工場の洗車場において、生コンクリートミキサー車後部で横向きになって倒れていたところを発見された。病院へ救急搬送され入院していたが、翌日死亡した。	221	1	10～ 29
			生コン車の残コンクリートを篩い分けるトロンメルと呼ばれる横回転ドラ			

2016	7	10 ～ 11	ムのメッシュ部分にコンクリートが目詰まりしたため、被災者がドラム上に跨ってはつり作業を行っていたところ、第三者であるミキサー車の運転手が現場から約4m離れた放水シャワースイッチを入れたため、同スイッチに連動して跨っていたドラムが回転し、被災者はドラム横の防護枠との隙間約20cmに胸部をはさまれ、搬送先の病院で死亡した。	169	7	10～ 29
2016	8	13 ～ 14	生コンの原料である砂を貯蔵しているサイロ下部にあたるホッパー1の排出口の調整のため、事業場の責任者である工場長がホッパー2の内部に入って作業していたところ、サイロ内に残っていた砂が、ホッパー1の排出口から流れ落ち、腰部まで埋まったため、工場長自身が自力で抜け出せなくなった。そこで、工場長の指示により、操作室からホッパー2を操作し、ホッパー2の砂を抜いたところ、工場長が生き埋めとなった。	523	5	1～9
2016	10	16 ～ 17	被災労働者が、コンクリートミキサー内の清掃中に、注油作業をしようとした別の労働者が当該ミキサーを稼働させたため被災した。	162	7	30～ 49
2015	8	9 ～ 10	被災者は、建設工事現場において、ミキサー車からコンクリートポンプ車へのコンクリート供給の作業時に、ミキサー車を後進させ所定位置に停車させるための誘導の業務を行っていた。被災者は、ミキサー車を停車させた後に体調不良となり、ミキサー車前方の日陰部分に座り込んでいたところ、ミキサー車の運転手が被災者に気付かずに発車したため、当該ミキサー車に轢かれたもの。	221	7	10～ 29
2015	5	13 ～ 14	砂利採取の現場において、被災者は1人で2台のドラグ・ショベルを用いて、砂利を掘削する作業及び掘削した砂利をトラックの荷台に積み込む作業を行っていた。午後1時過ぎ、当該事業場の労働者がトラックで現場に行ったところ、湧き水等が溜まっている掘削した穴の中に、横転した状態で水没しているドラグ・ショベルを発見した。被災者は、同機械の運転席から救出されたが、病院で死亡が確認された。	142	1	10～ 29
			被災者は、午後2時半頃、当日の生コン打設が終了したので、一人で生コン原料を混練するミキサー及び生コン打設機を洗浄ガンにて洗浄していた			

2015	7	0 ～ 1	際、生コン打設機のホッパー部（縦横146cm、深さ150cm）に転落し、左足をホッパー底部の送出スクリー（長さ約100cm、径26cm）に巻き込まれた。救出に約4時間かかり、被災者は救急搬送されたが出血多量で死亡した。	391	1	10～ 29
2015	5	0 ～ 1	生コンクリート製造設備のうちの骨材貯蔵ヤードにおいて、細砂の貯蔵ピットの底の穴が詰まり、穴からベルトコンベヤーに砂が落ちにくくなっていたため、貯蔵ピットに入り底の穴の詰まりを取り除こうとしたが、崩壊した砂に埋没した。	523	5	1～9
2015	3	8 ～ 9	生コン搬送用ホッパー下部の扉を開けてホッパー内部の清掃中、扉が閉まり、清掃作業を行っていた被災者の頸部が扉に挟まれたもの。	229	7	10～ 29
2015	5	16 ～ 17	珪石サイロ内部の珪石抜き取り作業中、サイロ下部に設けられたコンベヤーにより珪石を抜き取るため、被災者はサイロ内においてドラグ・ショベルを運転し足元を固め作業場所を確保していたところ、突然サイロ中心部の珪石が陥没しドラグ・ショベルが後方に転落し運転席から投げ出された被災者に崩れた珪石が覆い被さり上半身が埋没したもの。	418	1	50～ 99
2015	10	17 ～ 18	工場敷地の製品置場で被災者が単独でコンクリート製品の整理作業中、コンクリート製品の上に3枚重ねの別の製品（1枚361kg）をフォークリフトを用いて積み上げ、フォークリフトを降りて、その下方で何らかの作業を行っていたところ、突然はいが崩壊して、上に積み上げた3枚の製品が被災者の頭部を直撃した。	529	5	10～ 29
2015	3	0 ～ 1	被災者は、廃レンガの破碎作業において、破碎機から排出される破碎物に混入した鉄くず等を取り除く作業を行っていたところ、破碎機への投入を終え、別場所へ移動させようとしていたドラグ・ショベル（バケット容量0.7m ³ ）に下半身を轢かれた。	142	7	10～ 29
		16	製品（コンクリート製マンホールボックス、直径1.75m、組立高さ3.0m、総重量5.2t）の納入先にて、被災者は、製品の据え付け箇			50～

2014	1	17	所下部（地上から約3.0m下）に降り、不良箇所を補修していたところ、上部にて別の作業を行っていたドラグ・ショベルが転落し、押し倒された製品と法面の間に頭部及び胸部を挟まれた。	141	5	99
2014	2	14 15	工場内にて、コンクリート擁壁を製造する生コンクリートが入ったコンクリートバケットをフォークリフトで搬送していたところ、直進中のフォークリフトの前方に立ち入った被災者に接触した。	222	6	1～9
2014	5	16 17	残コンクリートの処理機（トロンメル分級機）内部の清掃作業中、処理機のカバー天板を元に戻すため、トラクターショベルのバケットで天板を持ち上げた際、天板が傾いたため、被災者は、片足を処理機の中段付近にある角パイプに掛け、反対の足をショベルのバケットに掛け、天板の傾きを直そうとしたところ、バランスを崩し、2.45メートル下のコンクリート床に墜落した。	391	1	10～ 29
2014	6	16 17	ミキサーの清掃作業中、被災者は、ミキサー内で大腿部を攪拌羽に挟まれている状態で発見され、死亡した。	162	7	10～ 29
2014	7	7 8	コンクリートプラントの立ち上げ準備作業中、操作室等のあるフロアのベランダ（高さ約7m）から地上に墜落した。	416	1	10～ 29
2014	8	13 14	ミキサー車の後方にて、ポンプ車投入ホッパーへのコンクリート投入準備作業を行っていた際、被災者は、後退してきたミキサー車とポンプ車との間に挟まれ、死亡した。	221	7	30～ 49
2014	10	8 9	工場内バッチャプラントの骨材サイロにて、砂が抜かれたサイロ内に落ちた足場板（コンパネ材）を拾おうとサイロ内の底部に立ち入ったところ、壁面に付着していた砂が崩れ、生き埋めになった。	523	5	10～ 29
2014	12	13 14	コンクリートミキサー車で県道を西進中、道路横のガードレールを乗り越え、下の川岸に墜落した。	221	17	10～ 29

2014	12	16 ～ 17	コンクリート製台付管成型機での作業終了後、成型機上部にあるコンクリートを投入する装置のホッパー内側に付着したコンクリートを除去していたところ、装置にコンクリートを供給するホッパー（中継ホッパー）が移動してきたことに気づかず、中継ホッパーと装置のホッパーとの間に挟まれた。	229	7	30～ 49
2013	4	11 ～ 12	コンクリート工場建屋内において、雨のため原材料を運搬するゴムベルトコンベヤーの送給に不具合が生じ、コンベヤーを稼働させた状態で被災者がドライブ（ヘッド）プーリーに滑り止めを塗布していた際、当該プーリー部分に左腕を巻き込まれたと推測される。	224	7	1～9
2013	4	18 ～ 19	被災者は、集じん機の調子が悪かったので、単独で集じん機の点検作業を行っていた。点検時に集じん機内の粉が落ちるため、箱型容器をフォークリフトに乗せた状態で、集じん機の下に置き、点検終了後、一旦フォークリフトをバックさせ停車し、発じん防止のため、集じん機の架台にブルーシートを掛ける作業を行っていたところ、傾斜のため逸走してきたフォークリフトと集じん機の架台に胸部を挟まれた。	222	7	10～ 29
2013	5	18 ～ 19	生コンを練るミキサーに付いたコンクリート等を除去する清掃作業のため、ブレーカーによるはつりや水圧洗浄機による洗浄を、被災者を含め3名で行っていた。停止していたミキサーが動き出し、はつりを行っていた被災者がミキサーに巻き込まれた。	162	7	10～ 29
2013	1	14 ～ 15	事業場敷地内において、被災者ら3名は最大積載量7.2トンの貨物自動車の荷台にフォークリフトを用いてコンクリートブロックを積む作業を行っていた。被災者は荷台の上（地上高さ約1.5m）で、荷台に乗せたブロックの位置を調整する作業をしていたところ、墜落した。	221	1	1～9
2013	11	11 ～ 12	コンクリート製造等に用いるため、砂の採取を行うダム作業所の湖面まで取り付けられた作業道において、ドラグショベルを用いて流木の除去作業を行っていたところ、ドラグショベルが転倒し、湖面に水没した。	142	10	10～ 29
		16	最大荷重2トンのフォークリフトで塩ビパイプ管の束10本（重さ12.5kg）を運搬するため、傾斜角8度のコンクリート道路上を前進走行			

2013	8	～	中、フォークに乗せた塩ビパイプ管が道路脇に置いた資材に当たり、バランスを崩したため右にハンドルを切った際フォークリフトが横転し、横転したフォークリフトの下敷きになった。	222	2	1～9
2013	9	～	10 被災者は、砂防ダム工事現場に向かって作業道（幅約3m）を走行してい 11 た。作業道がジグザグ道のため、方向転換出来ない坂路を後進にて登坂し 12 た際、ミキサー車ごと道端から作業道までの斜面を約20m転落した。	221	17	10～ 29
2013	10	～	11 セメント製ブロックの製造作業において、昼休みになるので機械を止め、 12 休憩に入るため手洗い等をしていたところ、機械南側にあるパレットを押 す装置の下の床で、頭部から血を流して倒れている被災者が発見された。 13 被災者が倒れていた付近の機械のフレーム及びパレットを押す装置には、 14 被災者のものと思われる血痕があった。	169	7	30～ 49
2012	5	～	13 事業場敷地内製品置き場において、天井クレーン（つり上げ荷重10t）を 14 用いて3段に積まれたコンクリート杭（長さ5m、直径0.8m、重さ約3.2 t）を移動させる際、被災者が3段目に2本置いていたコンクリート杭のう ち1本に玉掛けをし、つり上げたところ、もう1本のコンクリート杭が被災 者の方に動き出し、被災者は2段目上から地面に飛び降りたが、被災者の 上にコンクリート杭が直撃した。	529	4	10～ 29
2012	10	～	17 コンクリート二次製品製造業の工場建屋内に設置してあるコンクリート攪 18 拌機の上部の枠（ヘリ部分）に立ち、高圧洗浄機を用いて、攪拌機内部の スクリー部分（枠から1.3m下部分）を洗浄していた被災者は、右足を スクリーに巻き込まれた。	162	7	10～ 29
2012	5	～	14 店舗敷地の隣接地に生えている雑木が建物に干渉するほどに生い茂ったた め、被災者がチェーンソーで伐倒したところ、当該伐倒木が建物に寄り掛 かって止まった。被災者が建物の屋根に上り、寄り掛かった伐倒木を両手 15 で揺すっていたところ、誤って約5mの高さから墜落した。	415	1	30～ 49
		19	骨材ヤード内砕砂骨材ビン底部に設置されている2基のホッパーを、業者 が修理をすることとなった。そのための準備作業として、6名で砕砂骨材 ビン内の砕砂を手作業でホッパーに落とし、排出する作業を開始した。約			10～

2012	7	7 ～ 20	45 t を排出し、砕砂骨材ビン底部北側ホッパー部分の回り約50cmが露出するまで掘り進めた際、西側砕砂が崩れ6名が砂に埋まった。被災者のうち、完全に埋まった2名が死亡した。	418	5	29
2012	7	19 ～ 20	骨材ヤード内砕砂骨材ビン底部に設置されている2基のホッパーを、業者が修理をすることとなった。そのための準備作業として、6名で砕砂骨材ビン内の砕砂を手作業でホッパーに落とし、排出する作業を開始した。約45 t を排出し、砕砂骨材ビン底部北側ホッパー部分の回り約50cmが露出するまで掘り進めた際、西側砕砂が崩れ6名が砂に埋まった。被災者のうち、完全に埋まった2名が死亡した。	418	5	10～ 29
2012	1	14 ～ 15	被災者は事業場で生コン車に砂を乗せ建設現場に向かう途中の県道にて、左カーブでセンターラインを越え対向してきた軽トラックと衝突し、そのまま道路脇の側溝に転落し、死亡した。	221	17	10～ 29
2012	9	10 ～ 11	被災者は遠心機を使用してコンクリートを締め固める作業をしている際に、型枠から異音が出たため、遠心機の運転を停止し、工場長とともに型枠についたバリを防音カバー内に入ってエアグラインダーによって削り取った。その後、工場長が遠心機を寸動で動かし型枠の異音が無くなったことを確認し、運転ボタンを押したところ、遠心機の運転と連動して防音カバーが閉まり、被災者は頸部等を挟まれ死亡した。	391	7	10～ 29
2012	12	16 ～ 17	被災者は+x v ん、¥ 1 本社工場内において、コンクリート製品（L型擁壁、約460 k g）を天井クレーンを使用し反転機に載せ、吊り具を外しクレーンを横行させた後、反転機を作動させ反転させようとしたところ、当該製品が倒れ、当該製品と反転機の間にはさまれた。	529	5	10～ 29
2012	1	9 ～ 10	コンクリート含有水をコンクリート分と水に分離する自動脱水機の中に入って清掃中、圧縮空気により作動するろ過板にはさまれ、心肺停止の状態いるところを発見され、救急搬送先の病院で死亡が確認された。	169	7	10～ 29
2012	6	17 ～	生コンクリートを調合するミキサー洗浄作業を単独で行っていた被災者は、ミキサーに巻き込まれて死亡した。	166	7	10～ 29

		18				
2012	1	15 ～ 16	被災者は半年に1度行うセメント原料の入ったタンク内部の清掃作業（原料ダスト掻きだし作業及びバキューム作業）を行っていたところ、側壁に付着した原料ダストが崩落し、被災者は足を取られて転倒、原料ダストに埋もれた。	523	5	50～ 99
2012	1	10 ～ 11	建材の成型を行う工場内で、当該成型作業に従事していた被災者は、モルタルカッターで所定の寸法に切断された際に発生する屑を吸着させダンパーまで移動する機械（吸引マット）と鉄柱との間に頭部を挟まれた。	229	7	100 ～ 299
2011	5	9 ～ 10	工場敷地内で、被災者運転のショベルローダーが、隣接する用水路（深さ約2m、幅約5m）に転落し、転落の際に運転席から投げ出され首などを強く打ち病院へ搬送されたが、搬送先の病院で死亡した。	225	1	50～ 99
2011	11	9 ～ 10	被災者は、他2名の作業者と屋外で建築用床材のFR板（コンクリート製品、12.7m×2.01m、約3.8t）の集積作業中、3枚目のFR板を積もうと、無線で橋形クレーン（つり上げ荷重10.2t）を操作しながら、位置決めを行い、FR板を巻下げようとしたところ、吊荷のFR板が被災者の方に振れて、被災者は、吊荷のFR板と背後に既に6枚積み重ねられていたFR板との間に胴体を挟まれ負傷し、搬送先の病院にて死亡。	211	7	1～9
2011	8	10 ～ 11	工場内のブロックマシンのパレットフィード部分（鉄板を押し出す部分）において、コンクリートブロックの型枠の下に敷く鉄板が詰まり、鉄板が送られてこなかったため、パレットフィードが停止したことに気付いた被災者が、パレットフィードの下部に潜り込んで、詰まった鉄板を取り除いたところ、パレットフィードが作動し、被災者の頭部に激突し、頭部がパレットフィードとフレームの間にはさまれ、死亡した。	169	7	1～9
2011	12	16 ～ 17	坂道にコンクリートミキサー車を止め、コンクリート打設作業中、生コンの出が悪くなったことから、ミキサー車の前後を入れ替えようと、輪留めを外しサイドブレーキを解除したがロックが解除されず、ミキサー車の方角転換は出来なかった。その状態のまま、被災者は生コンの残量確認等のためミキサー車のステップ上で作業していた際、ミキサー車が動き出し1	221	17	1～9

			10メートル下方のコンクリート壁に激突後横転しその下敷きとなった。			
2011	9	21 ～ 22	午後10時頃、労働者2名が、台風の大雨を警戒し、会社工場にとめていた生コン車12台を、会社所有の資材置き場（南へ約500m）へ移動させようとしたところ、川が氾濫し、2名とも流され、翌月、1名は会社工場から300m下流、もう1名は約5km下流で、遺体で発見されたもの。なお、工場も壊滅的な被害を受けており、生コン車も下流へ流されている。	713	10	1～9
2011	9	21 ～ 22	午後10時頃、労働者2名が、台風の大雨を警戒し、会社工場にとめていた生コン車12台を、会社所有の資材置き場（南へ約500m）へ移動させようとしたところ、川が氾濫し、2名とも流され、翌月、1名は会社工場から300m下流、もう1名は約5km下流で、遺体で発見されたもの。なお、工場も壊滅的な被害を受けており、生コン車も下流へ流されている。	713	10	1～9
2011	9	8 ～ 9	昇降路に囲いが無い自動車を運搬するためのエレベーターが動いていたにもかかわらず、被災者が昇降路内に立ち入ったため、上から降りてきた搬器と地上との間に挟まれて死亡したものの。	214	7	1～9
2011	12	8 ～ 7	被災者は、生コン工場敷地内のストックヤードに積まれた砂の山の上に掛けられていたブルーシートを外す作業を同僚労働者と二人で始め、当該砂山の上部に登り、当該上部において横移動しながらブルーシートを水平方向に巻き取る作業を始めたところ、当該砂山上部に空いていた穴の内部に落ち、大量の砂に埋もれて窒息死したものの。	523	1	10～ 29
2011	4	11 ～ 12	生コン製造プラントのメンテナンス中、プラント建屋屋上からバケットエレベーターに向かう途中の通路の金属製踊り場が腐食していたため、被災者が金属製踊り場に乘った際に床面を踏み抜き、地上まで9.54m墜落した。	416	1	1～9
		15	11.6m（高さ）×4.5m×5.5mのコンクリート原料の砂を入れるためのホッパーの内部に入り、排出口周辺の砂を足で蹴って排出口に落とっていたところ、足下の砂が崩れて排出口に転落し、右足が排出口には			10～

2011	12	～ 16	さまり、また、同時に排出口周囲の砂が崩れて首の部分まで埋もれた。 救出に時間を要し、日本大学板橋病院に搬送されたが、同日午後10時頃死亡が確認された。（労働者性については調査中である。）	523	1	29
2011	6	9 ～ 10	構内において、転倒したフォークリフトのヘッドガードとコンクリートの地面の間に頸部を挟まれている被災者を同僚が発見したもの。フォークリフトは荷を積載していないが、走行したと思われる場所は南側に行くほど角度が大きくなる傾斜地であった。南側前輪が通過したと思われる場所は12度の傾斜地で凹凸があり、北側前輪が通過したと思われる場所は7度の傾斜地であった。	222	2	10～ 29
2011	4	～ 15	工場敷地内の高圧受電設備（キュービクル）付近で、感電により倒れ死亡していたもの。被災者は高圧受電設備内の変圧器、コンデンサの製造年月日等、銘板を確認する作業を行っていたものと思われる。	352	13	1～9
2010	9	13 ～ 14	高さ11mのセメント用サイロの上部から地上のコンクリートに墜落したもの。サイロの上部には高さ1.1mの手すりが備わっていたが、監視カメラの位置を調整していた際に何らかの原因で手すり部分から墜落したものである。	418	1	10～ 29
2010	9	～ 7	被災者は早朝に出勤し、機械の日常点検に出かけたが、出荷時間の20分前になっても事務所へ戻ってこなかったため、工場長代理が携帯電話に連絡したが通じなかったことから、工場内を探したところ、シックナー（凝集沈降槽）の1次槽内に転落している被災者を発見したもの。前日に修理したポンプのホースを点検しようとした際に転落したとみられる。	418	10	1～9
2010	9	17 ～ 18	製造したPC板を橋型クレーンで荷積み作業中、つり荷が振れ、つり荷と積んでおいた荷の間に挟まれたものと思われる。	211	7	10～ 29
2010	8	6 ～	橋げた（コンクリート製）の製造工程において、型枠1枚（高さ140cm、長さ300cm、重さ620kg）を、天井クレーン（つり上げ荷重15t）を使用して取り外す準備のため、型枠を固定していたクランプ	419	5	1～9

		7	(6か所のうち4か所)を取り外そうとしたが、全て(6か所)を取り外してしまつたため型枠が倒れ、被災者が型枠の下敷きになってしまつたもの。			
2010	8	9 ~ 10	関連会社の生コンクリート製造工場から、建設工事現場へ生コンクリートを運搬するため、コンクリートミキサー車に生コンクリート(体積4立方m、重量約9400kg)を積載し、林道を走行していたところ、運転操作を誤って路肩から転落したもの。数時間後、当該ミキサー車が斜面の樹木に衝突し、静止しているところを発見され、運転席にいた被災者は病院へ救急搬送されたが、死亡が確認された。	221	17	1~9
2010	8	17 ~ 18	工場敷地内にある車両修理場建屋前で、被災者がミキサー車の操作レバーにもたれかかっていたところを発見された。このとき被災者には意識があつたが、熱中症を疑って病院に搬送したところ、頭部骨折が判明し、4日後に死亡した。発見直前、被災者はミキサー車の生コン投入口のへこみ部分を、ハンマーを用いて修理しようとしていて、ステップから転落したか地上で転倒したと考えられる。ヘルメットも安全帯も使用していなかつた。	221	99	10~ 29
2010	8	16 ~ 17	被災者は、夏季休暇前の工場内の排水溝内の清掃作業で出た堆積・固化したコンクリートのノロを入れたトンパック1袋をフォークリフトの右側フォークに片掛けで吊り下げて、構内の集積場に向かい走行していた。その途中の坂道を右カーブする際に、偏荷重となり車体バランスが崩れ、フォークリフトが右側に横転した。被災者は、運転席から投げ出されてヘッドガードと地面に身体を挟まれ、同日搬送先病院で死亡が確認された。	222	2	1~9
2010	7	8 ~ 9	事業場構内において、社員駐車場から構内事務所に歩いて向かう際、構内にて、協力会社の労働者が運転していたタイヤショベルの運転席の死角になり、バケットに接触して転倒した後、左後輪に下半身を轢かれたもの。搬送先病院にて同日に亡くなったもの。	141	6	10~ 29
			生コンクリート製造工場において、砂貯蔵用タンクの排出口が砂の塊で詰			

2010	6	10 ～ 11	まったため、タンク内で作業員4人が同箇所の砂を掘り、片寄せしていた。その後、作業員2人がタンク内にいる状態で、別の作業員らがタンク外にある排出口のホッパー内をはつり機で突いていたところ、急に詰まりが取れ砂が流出したため、被災者が砂で埋まり、圧死したもの。	418	1	30～ 49
2010	6	16 ～ 17	事業場建屋内（屋根はあるが障壁はない場所）で被災者はコンクリート型枠の組立や掃除の作業をしていた。作業が一段落し、休憩所で5分程度の休憩ののち、作業場に戻らず門の外に向かって歩いていき、突然道路上で倒れたもの。被災者は病院に搬送されたが翌日熱中症により死亡した。	715	11	10～ 29
2010	5	9 ～ 10	生コン製造工場が発生する濁水（スラッジ水）をコンクリートと水に分離する機械（脱水機）において、被災者が油圧シリンダで押されたろ布板（濁水を濾過する板）に頭部と右腕を挟まれて死亡しているのを同僚が発見した。	169	7	10～ 29
2010	5	8 ～ 9	生コンクリート工場内で、被災者がトロンメル（生コンクリートから水、砂、砂利を分離する機械。縦2.2m、横2.5m、高さ2.5m）に体を挟まれているのを同僚労働者が発見し、被災者は病院に運ばれたものの約2時間半後に死亡した。現認者はいなかったものの、被災者はトロンメルのスクリーン（ふるい部分）に目詰まりした綿状のゴミを除去するために、ゴミを除去するブラシを持ってトロンメルに立ち上がったものと思われる。トロンメルの動力が遮断されておらず、間欠的に動く状態であった。	169	7	10～ 29
2010	5	12 ～ 13	被災者は、砂利搬送用コンベヤーのスナップローラー交換作業のため、骨材ビンの上部の鉄骨上で作業を行っていたところ、当該骨材ビン内の砂材料上に墜落した。当該骨材ビンは運転中で、骨材ビン下部から砂材料が放出されることによって、しだいに被災者が砂材料に深く埋もれていき、窒息死した。開口部への転落防止対策が講じられていなかった。	418	1	10～ 29
2010	5	11 ～ 12	消波ブロック製作現場において、被災者がブロック周囲に設置されたわく組足場の最上層（4層目）より、約6.8m下のアスファルト地面に墜落し死亡した。わく組足場には2段手すりが設置されているものの、墜落した場所だけプレスが設置され、そこには下さん、上さんが設けられていな	411	1	10～ 29

			かった。			
2010	2	9 ～ 10	ボックスカルバート製造用の型枠の解体作業中、側面の型枠が倒れ、被災者がその下敷きとなったもの。	419	5	1～9
2010	2	15 ～ 16	アスファルトプラントの受入材料用ベルトコンベアが異常停止したため、被災者を含めて3名で復旧作業を実施していた。被災者はベルトコンベア下部の砂を取り除く作業を担当していたが、作業が終了してテスト運転を実施し、その後本運転を行っていたところ、被災者がベルトコンベアに巻き込まれているのが発見されたもの。	224	7	1～9
2010	1	12 ～ 13	事業場内で倒れている被災者を同僚が発見し、救急車で病院へ搬送したが、8日後に頭部の負傷により死亡した。災害発生直前、被災者は生コンクリート出荷準備のため、ミキサー車の点検作業を行っていた。被災者が倒れていた場所は床が凍結しており、滑りやすい状況であったことから、転倒したと推測される。	417	2	1～9
2009	8	8 ～ 9	朝礼終了後、同僚作業者は被災者の姿が見当たらないため捜したところ、午前9時過ぎ頃事業場敷地内にある生コンの原料（細砂）を投入するホッパーの下部に取り付けられた空け口から被災者のゴム長靴が一部出ているのを発見した。このため、消防署に連絡し救急隊が当該ホッパー内の細砂を取り除いたところ、生き埋めとなっている被災者を発見し、病院に搬送したが死亡が確認された。	418	1	30～ 49
2009	10	11 ～ 12	被災者は、生コンクリート製造工程における混和剤の計量及びそのミキサーへの投入のために、バッチャープラント建屋4階（約11m）まで、荷用エレベーターの搬器に搭乗し上昇中、搬器をつっていた巻き上げ装置のフックが当該搬器から外れたため、約11m下の地上へ、搬器とともに落下した。	214	1	1～9
2009	4	14 ～ 15	被災者は、造粒機から造粒品を乾燥機へ搬送するベルトコンベヤーの地下ピットを清掃作業中、コンベヤーのテール部のリターンローラーに巻き込まれ被災した。	224	7	50～ 99

2009	3	11 ~ 12	工場内コンクリートプラントの骨材（砂利・砂）ヤードにおいて、当該ヤードに隣接する砂利をストックしておく場所の区画塀を形成するコンクリートブロック（1辺92cmの正方形、重さ約1.7t）を同僚が操作する車両系建設機械（トラクター・ショベル）を用いて積み換え作業中、3段目に積んだ当該ブロックが落下して被災者が下敷きとなった。	141	4	10~ 29
2009	7	17 ~ 18	被災者は、一人で側溝の蓋板製造ラインの生コン投入ホッパーの掃除を行っていた。しばらくしてホッパーの側を通った事業主がうめき声に気づき、ホッパー内を見たところ、被災者が攪拌機のシャフトにはさまれていた。	162	7	10~ 29
2009	5	10 ~ 11	被災者は橋型クレーン（つり上げ荷重15t）でコンクリートパイプ（外径70cm×長さ9.0m、重量4.4t）2本を運搬する作業を行っていた。被災者と同僚1人が当該パイプの玉掛けを行い、つり上げた状態で仮置中の別のコンクリートパイプ（外径80cm×長さ9.0m、重量5.58t）の輪止めをしようとしたところ、つり上げていたパイプとの間にはさまれた。	529	7	30~ 49
2009	10	8 ~ 9	県道において、Aが運転するダンプトラック（10t）と、Bが運転するコンクリートミキサー車が正面衝突し、Bは病院に運ばれたが死亡した。	221	17	10~ 29
2009	9	16 ~ 17	夕方になり、被災者が見当たらないので捜していたところ、骨材ストックヤードの中の砂をためておくサイロ内の砂の中で窒息していた。同サイロ内でスコップが発見され、同サイロ内のすり鉢状に固まっている砂をスコップで崩す作業をしていた。	391	1	30~ 49
2008	11	12 ~ 13	コンクリートミキサーの開口部（幅1.18m、高さ0.58m）に袋入り（6kg）の粉状の顔料を投入作業中、コンクリートミキサー内に転落して攪拌軸に巻き込まれた。	162	1	10~ 29
2008	6	8 ~ 9	型枠から側溝（U字溝）を脱型する作業中に鋼製の型枠材である妻板が倒れたため激突されて死亡した。	391	6	30~ 49

2008	3	13 ～ 14	被災者はフォークリフト（最大荷重2.8t）を運転して工場で製造されたコンクリートブロックを製品置場に運搬して戻ってくる際、傾斜7度の上り勾配に出て右折しようとしたところフォークリフトが横転してフォークリフトのヘッドガードと道路面にはさまれて死亡した。	222	2	10～ 29
2008	3	9 ～ 10	採砂場の緑化復旧工事において、ドラグ・ショベルを運転して法面成形の作業を行っていたところ、足元の路肩がくずれて重機ごと16m下方まで転落した。被災者は運転室内で身体を強く打ち死亡した。	141	1	10～ 29
2008	3	13 ～ 14	工場長である被災者がミキサー車を運転中に乗用車と衝突して横転し、車外に放り出されて下敷きとなった。	221	17	1～9
2008	8	18 ～ 19	被災者がコンクリートの骨材の貯蔵槽の中に入り、その内周に付着した砂を掻き落していたところ、砂が崩壊して1.2mほど埋まり死亡した。この作業は、骨材置場の地下のベルトコンベヤーの下部等に落ちた廃骨材を一時的に同槽内に入れたものを清掃する作業であった。	711	5	1～9
2008	10	14 ～ 15	被災者が、コンクリートの原料を混合するミキサー（直径2.8m、高さ1.5m）の内部で底板の張替え作業を行っていたところ、突然、ミキサーの電源が入り、回転する混練羽に巻き込まれて死亡した。	162	7	1～9
2008	10	17 ～ 18	仮置きしていた組立鉄筋（重さ約2.1t、高さ2.4m×長さ約7m×最大幅1.7m）が崩れたため、立て直すために橋型クレーン2台を使用して組立鉄筋に単管を通し、その単管の2点に玉掛けワイヤーを通す作業をしていたところ、組立鉄筋が再び倒れて被災者が下敷きになった。	521	5	10～ 29
2008	1	8 ～ 9	事業場のゴミを回収して、事業場と道をはさんで反対側にあるゴミステーションに捨ててに行った時、路上で立ち話（約5分間）をしていたところ、軽乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2008	8	14 ～ 15	生コンクリート製造工場において、ミキサー車の運転手である被災者ら3名が製品の輸送作業終了後、製造プラントのミキサーの清掃のために主電源を切り、ミキサーの内部で清掃作業を行っていた時、ミキサーの排出ゲートを開けるために1名がミキサーから出て主電源を入れたところ、ミ	162	7	1～9

			キサーが作動して内部の2名が攪拌羽根に巻き込まれて1名が死亡した。			
2008	12	14 ～ 15	コンクリートミキサー車で現場に生コンクリートを運搬したところ、工場内で他社による車の移動があったため、移動する車両積載形トラッククレーン（以下「トラッククレーン」という。）の誘導を行い、その後、トラッククレーンの前方に移動したところ、位置を変えるため移動したトラッククレーンの荷台と建設中の豚舎の擁壁との間にはさまれて死亡した。	212	7	10～ 29
2008	2	15 ～ 16	コンクリートミキサー車の外板塗装作業を脚立（高さ1.95m）に乗り作業を行っていたとき、車体と脚立の間に転落して死亡した。	371	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	屋外の7.5t橋形クレーンにてコンクリート製合成床板（1.8m×2.98m×厚13cm（一部25cm）1.4t）をトレーラーシャーシに積み込む作業で、4点づりで玉掛け後に荷をつり上げたところ、荷が被災者の方に振れて激突し、被災者の背後に積まれていた別の合成床板との間にはさまれて死亡した。	211	6	1～9
2008	5	9 ～ 10	被災者がセメント材を積み込んだタンクローリーを運転し、自社の生コンプラントに戻る途中に国道の緩い下りの左カーブで中央分離帯に接触後、対向車線を越えて高さ約2m下の路外に転落、タンクローリーが横転した。	221	17	30～ 49
2007	4	9 ～ 10	建設現場に生コンを納入後、工場に戻るため本線車道に出ようした際、交通誘導のため歩道の街路樹横にいた被災者に気付かず、左折を開始したため、街路樹とミキサー車左後輪部分の間に被災者がはさまれた。	221	17	10～ 29
2007	3	12 ～ 13	コンクリートミキサー車のドラム内部に付着したコンクリートをはぎ落とす作業が終わり、はぎ落としたコンクリートを排出させるためにドラムを動かしていたところ、被災者がドラムホールと車体の間にはさまれた。	221	7	10～ 29
2007	6	15 ～	被災者が工場内の養生室において、コンクリートを打設した鋼製型枠の架台上に乗り、生コンの表面をコテで均す作業を行っていたところ、被災者	391	5	10～

		16	が乗っていた型枠が傾き、落ちたため、被災者が当該型枠と養生室のコンクリート壁にはさまれ死亡した。			29
2007	1	9 ～ 10	生コン製造プラントのベルトコンベヤー部分で、ローラーについた砂を治具（鉄筋の先にへらを取り付けたもの）を使って掻き落していたところ、ベルトコンベヤーとローラーとの間にはさまれた。	224	7	1～9
2007	8	16 ～ 17	コンクリート製品製造事業場内で、被災者は製品として屋外に立て掛けられていたコンクリート製の防火水槽の蓋（縦2.4m、横3.4m、厚さ0.4m、重量約5t）の表面仕上げ作業を行うため、当該蓋の下部を足がかりにして上ったところ、蓋が被災者側に倒れ、下敷きになった。	611	5	1～9
2007	5	10 ～ 11	道路上において、トラックの荷台に積載していたU字溝等のコンクリート製品を降ろした後、トラックの車止めを外して、運転手がトラックから離れたところ、勾配約12度の坂道をトラックが前進で下り始めた。運転手は、トラックを追いかけて、運転席の扉を開けた後、運転席に乗り込んだが、トラックが歩道の縁石等に乗り上げた衝撃等により運転席から墜落した後、トラックの右後輪にひかれた。	221	17	10～ 29
2007	8	16 ～ 17	生コンクリート製造工場において、生コン資材（バラス、砂等）搬送用ベルトコンベヤーのテンションプーリー（直径32cm、巾66cm）に巻き込まれているところを同僚に発見された。	224	7	1～9
2007	11	15 ～ 16	ボックスカルバート製造用型枠の整備作業中、縦3.0m、横6.1mの妻板1枚を2名で引出したところ、妻板の抜け落ちを防止するためのストッパーがされていなかったため、当該妻板が抜け落ちて倒れ、2名が下敷きとなり、1名が死亡した。	391	5	30～ 49
2007	3	19 ～ 20	建材プレート製造ラインのコンベヤー終端で製品をパレット上に積み上げる積み込み装置において、装置内部で作業を行っていた作業員2名が、下降してきた建材プレートを取り上げるバキューム保持装置にはさまれ、内1名が死亡した。	167	7	50～ 99
2007	12	8	積み上げたコンクリート型枠が崩壊し被災者が下敷きとなった。	611	5	10～

		9				29
2007	9	16	新設した破砕処理プラントにおいて、ゴムベルトコンベヤーの試運転を兼ねたベルト位置の調整作業中、ローラー（無動力で、戻りのベルトの安定を保つもの：Φ150mm、L=1300mm）とベルトの間に左手から上半身が巻き込まれて死亡した。被災者の傍らにケレン棒が落ちていたため、ローラーに付着した泥を掻き落とそうとしていたと思われる。	224	7	10～29
2007	8	17	生コン工場内において、被災者が見当たらないので、プラント内を探していたところ、セメントサイロ（30t）の上部点検口が開いており、中に入ると様子がおかしいので、セメント粉体内をさがしたところ、埋まっている被災者を発見した。既に死亡していた。	418	1	10～29
2007	8	17	セメント材料（水砕スラグ）の受入作業に従事する被災者は、受入ホッパー下の地下室においてベルトコンベヤーから漏れ落ちたスラグをベルトコンベヤーに戻す作業中倒れた。災害発生当日、気温は28.7℃、湿度は72%であった。	715	11	100～299
2006	10	8	被災者は、コンクリートブロックの製造において、コンクリートブロックの型わくの解体作業中、型わくのふた（0.59トン）につりチェーン（0.5トン用×2）にて玉掛を行い、クレーンを用いて型わくのふたを床に降ろしていたところ、つり具のシャックル部（0.5トン用）のピンが破損し外れたため、型わくのふたが倒れ、型わくのふたの下敷きとなった。	372	5	10～29
2006	12	16	生コンの追加注文が入ったので生コンプラントの操作室へ連絡したところオペレーターの被災者が内線に出ないため従業員全員で被災者を探したところ、骨材ヤード内骨材びんの一つに骨材をつつく棒がささっているのを発見し、つつき棒のささっている骨材びんを掘ったところ被災者が埋まっているのを発見した。	418	1	50～99
		13	被災者がコンクリートパイルの骨となる鉄筋籠を製造する鉄筋籠編成機を運転したところ、スライドベースと呼ばれる溶接機をセットし忘れたのに			300

2006	10	～ 14	気づき、同機械の運転を停止しないまま安全カバーを開き、回転しているスライドベースのレバーを引こうとしたところ、回転しているらせん筋供給用ホースの支持パイプに右足が引っ掛かり、そのまま被災者の体が同機械に巻き込まれて回転し、床に強打した。	169	7	～ 499
2006	10	～ 11	P C 杭製造工程に於いて、末端金具に緊張材であるφ 9 mmの鉄筋 2 6 本をとおす作業を行っていた際、1 本だけ飛び出た鉄筋が刺さった。	521	3	10～ 29
2006	7	～ 11	被災者は、コンクリート製ヒューム管用の金属製型枠（ドーナツ形 直径 2 m 自重 7 0 0 キロ）の脱型作業を行っていた。被災者と同僚はクレーン（吊上げ荷重 1 トン）を用いて、その金属製型枠をクレーンで吊上げた状態のまま、工場内のステージに立てかけた。被災者は、その立てかけた金属製型枠についているカス（コンクリート）を削る作業を行っていたところ、その金属製型枠が倒れてきて、下敷きとなった。	379	5	30～ 49
2006	4	～ 15	工事現場に生コンクリートを運ぶため、県道をコンクリートミキサー車で運転途中、左カーブを曲がり切れず横転し対向車線を突っ切り、道路右側のコンクリート壁に衝突した。	221	17	10～ 29
2006	4	～ 17	被災者がつり上げ荷重 2. 8 トンの橋型クレーンを使用して 1. 6 トンのビル壁用コンクリートを玉掛けし、運搬していたところ、当該荷とクレーンの支柱部分に挟まれた。	611	6	30～ 49
2006	2	～ 14	コンクリートスラッジ水槽の上部に設置しているスラッジ配管の先端部に取り付けられた異物除去用かごを取り外す作業をおこなっていた。取り外したかごをピットに投げ捨てようとしたときに、かごの重量（約 2 6 k g）により反動がつき、バランスを崩し、約 4 m 下のピットに転落した。	416	1	1～9
2006	3	～ 12	生コン製造用の砂が入ったサイロの中で、サイロの砂を全部かき出すため、サイロの内壁に付着した砂をかき落とす作業をしていたところ、被災者の足元の砂が崩落して被災した。	418	1	10～ 29
2006	2	～	工場内のヤードで、コンクリート製のくい（6 0 c m × 1 3 m 重さ 4. 8 トン） 2 本をクレーン（1 5 トン）で移動中に、吊り上げていたワイヤ	372	4	30～

		10	が切れ、くいが落下し、その下敷きになった。			49
2005	8	17 ～ 18	生コンクリートの製造及び積込みを行うバッチャープラントの2階ミキサ室において、ミキサ内部を洗浄器で洗浄作業を行っていたところ、感電した。	359	13	10～ 29
2005	5	15 ～ 16	ブロック成型マシンを用いて作業中、機械の一部に激突された。	169	6	50～ 99
2005	1	10 ～ 11	製品ヤードにおいて、フォークリフトで積み重ねたヒューム管（直径60cm）の歯止めを行うため、ヒューム管からフォークリフトのフォークを外した後、フォークリフトから降りてヒューム管積上げ場所とロット積上げ場所との間に入ったところ、歯止めを行っていないヒューム管が落下し、激突した。	611	4	30～ 49
2005	9	15 ～ 16	小型移動式クレーンで、運搬してきたプラント用発電機を地上に降ろそうと当該クレーンを操作し旋回したところ、当該クレーンが被災者側に倒れ、再生コンクリート山との間に挟まれた。	212	7	10～ 29
2005	3	10 ～ 11	コンクリート製U字側溝の製造ラインにおいて、型枠内部で鉄筋の組立作業中、頭上にあつた型枠側板塗油装置をつっていたチェーンが切れて落下し、その下敷きとなった。	169	4	10～ 29
2005	6	17 ～ 18	プラントの骨材の計量用ホッパーの内部の清掃作業でホッパーの内部に入り、スコップを用いて砂を掻き落とす作業を行っていたところ、上部に溜まっていた砂が流れ落ちてきたため、砂に埋没した。	523	5	10～ 29
2005	12	14 ～ 15	コンクリート2次製品の製造工場建屋内において、型枠へフォークリフトから下車後、逸走したフォークリフトの左側後輪でひかれた。	222	7	50～ 99
2005	12	16 ～ 17	生コンミキサーの清掃作業中、ミキサー内に転落した。	162	7	10～ 29

2005	6	15 ～ 16	コンクリート2次製品であるU字側溝を製造するために型枠の組立て作業を行っていた際、型枠のうち外側型枠の開き止めのために設けてあったストッパー1個が破壊して外れたために支えを失った当該外側型枠が外に向かって倒れ、同外側型枠の側にいた被災者が下敷きとなった。	391	5	10～ 29
2005	3	8 ～ 9	タンクローリーで国道を走行中、下り坂の左カーブを曲がろうとしたときに横転し、対向車線で信号待ちをしていた他の車両と衝突した。	221	17	50～ 99
2005	9	10 ～ 11	内装ボード製造ラインにおいて、原料投入作業を行っていたところ、原料投入ホッパーとフレコンバックとの間に挟まれた。	611	6	10～ 29
2005	10	13 ～ 14	高さ3mの箇所にある配管をガス溶接装置で切断し撤去する作業中、墜落した。	418	1	10～ 29
2005	10	17 ～ 18	コンクリート製品製造工場において、作業終了後、コンクリートミキサーを洗浄し、出た水やガラをトラクター・ショベルでガラ捨て場に捨てようとした際に、トラクター・ショベルごと水深1.8mのため池に転落した。	141	1	1～9
2005	3	15 ～ 16	建設現場で大型ミキサー車より小型ミキサー車へ生コンクリートを積み替える作業場所において路上を歩いていたところ、下り坂に停車中の大型ミキサー車が無人で動き出し、小型ミキサー車に伝票を渡すために構内を歩行中の被災者が小型ミキサー車と大型ミキサー車との間に挟まれた。	221	6	10～ 29
2005	5	0 ～ 1	資材置き場で、不安定な状態となっていたU字ブロック（重さ460kg）に近づいたところ、当該ブロックが崩れ下敷きとなった。	529	4	50～ 99
2005	5	4 ～ 5	コンクリート製のトンネル部材（重さ2.5トン）を、ホイスト式天井クレーンでトラックに積み込もうとしていたとき、玉掛部のアイボルトが破断し、当該コンクリート製品が被災者に落下した。	372	4	50～ 99
		8				10～

2005	5	9	砂を貯蔵するサイロ内で作業中の被災者が、砂により生き埋めになった。	523	5	29
2005	9	14 ～ 15	丸管コンクリートの製造工程において、生コン流込み作業を終えた丸管コンクリート用型枠(高さ1.2m、重さ300kg)の上に立ち、バイブレーターを使用し締固め(エア抜き)作業をしていたところ地面に落ち、さらに同型枠が倒れて被災者が下敷きとなった。	169	5	10～ 29
2004	1	11 ～ 12	自社工場の生コンを生コンミキサー車で納入先の工事現場に配送終了後の帰社途中、林道の左カーブを通り過ぎた直線路にさしかかったところ、林道左側の路肩から35m下の谷に転落し、その際、車外に投げ出され運転していた生コンミキサー車の下敷きとなった。	221	1	10～ 29
2004	11	17 ～ 18	車両積載形トラッククレーンを使用し、荷(重さ約1200kgの鋼製の架台)のつり上げ作業を行っていたところ、当該クレーンが転倒し、操作を行っていた被災者がこれに巻き込まれた。	212	7	10～ 29
2004	12	16 ～ 17	コンクリート会社敷地内において、余剰となった生コンクリートにより作成したコンクリートブロックを仮置き作業していたところ、このブロック塊の間に挟まれた。	142	6	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	コンクリートミキサー車のドラム内部の攪拌ブレードを溶接修理する前処理としてドラムの中に入りブレードに付着したコンクリートをハンマーで除去していた被災者が、作業する個所を変えるためドラムを少し回すよう上司に依頼し上司が車外からエンジンを始動したところミキサー車が急にバックし、同時にドラムも回転したため、被災者がドラムの開口部と車体との間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2004	11	0 ～ 1	砂防ダム建設現場へ生コンを納めるため、ミキサー車を運転中、林道から、約30m下の川へ転落した。	221	17	10～ 29
2004	11	10 ～ 11	大型コンクリートミキサー車で、生コンを運ぶため県道を走っていたところ、ハンドル操作を誤って車が横転し、その勢いで路肩側のガードレールを突き破り側溝の水路に転落した。	221	17	10～ 29

2004	8	11 ～ 12	コンクリート製下水管をホイスト式天井クレーンで高さ1.2mまでつり上げ移動作業を行っていたところ、当該つり荷の下水管が振れて、被災者が当該つり荷と近くに置いてあった別の下水管との間に挟まれた。	211	7	1～9
2004	10	0 ～ 1	コンクリートミキサーの羽の裏に固着したコンクリートを取り除くため、シュートに足場を設け、コンクリートミキサーの底から頭を出してハンマーを用いて作業していたが、シュートとコンクリートミキサーとの間にある開閉鉄板が閉まり、当該鉄板とコンクリートミキサーの底との間に挟まれた。	162	7	30～ 49
2004	6	11 ～ 12	ALC版加工機械運転作業中、加工後の製品をパレットに積み上げる工程において、床に敷かれたパレットと機械により供給されてきたパレットとの間に挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2004	7	16 ～ 17	コンクリートセグメントをフォークリフトで製品置場まで運び、いったん仮置きした後、運転席から降りて、運んできたセグメントを2段目に積むために台木を置く作業をしていたところ、フォークリフトで運んできたセグメント1ピースが倒れその前で作業していた被災者が挟まれた。	611	5	30～ 49
2004	5	9 ～ 10	護岸用コンクリートブロックの製造ラインにある自動金型脱型装置において、運転状態のまま脱型装置の中に入り、製品が入った型枠の位置修正をしていたところ、脱型装置のアームが下降したため、当該アームと金型の間に挟まれた。	167	7	10～ 29
2004	6	10 ～ 11	コンクリートミキサー車を運転して、県道を走行していたところ、県道と国道とが交差するT字路に進入する際、停車することなく正面の民家の石垣に衝突し、その弾みで外れた生コンクリートタンクが運転席後部を直撃し被災した。	221	17	30～ 49
2004	11	7 ～ 8	工場入口に、ミキサー車を停止して車から離れ、資材を持ってミキサー車に戻ったところ、停止してあったはずのミキサー車が無人のまま動き出したので、ミキサー車の前に立ち自力で止めようとしたためミキサー車の下敷きになった。	221	7	10～ 29

2004	2	15 ～ 16	U字溝生産ラインにおいて、生コンクリート投入機と柱との間に挟まれた。	169	7	30～ 49
2004	11	15 ～ 16	砂貯蔵用のホッパー内で貯蔵していた砂が固まり、ホッパー下部の開放口から落ちないため、ホッパー内部に入り、鋼製の棒を使って砂を叩いていたところ、突然落ちはじめた砂に巻き込まれ埋没した。	418	1	1～9
2004	2	16 ～ 17	砂利採取場において、表層土等を掘削採取した個所をトラクター・ショベルにより砂利で埋め戻し作業中、砂利掘削個所に転落した。	141	1	50～ 99
2004	11	13 ～ 14	生コンプラントの骨材投入口に取り付けられている保護用ラバーを交換する作業において、取り外したラバーをホッパー内部から拾うために点検口よりタラップを降りようとして墜落し、ホッパー内の碎砂に埋没した。	418	1	10～ 29
2004	7	11 ～ 12	2時間半程度炎天下で作業した後、会社の車を運転していたところ、交差点において信号待ちの際、体調が悪くなり意識を失った。	715	90	10～ 29
2004	4	11 ～ 12	プラント建物内で部材を交換し、電動チェーンブロックで地上に降ろす作業中、2階開口部（約1.5m×1m）より約6m下のコンクリート床に部材、鉄板とともに墜落した。	414	1	10～ 29
2004	3	9 ～ 10	生コン製造工場内で、ベルトコンベアの点検作業をしていたところコンベアに挟まれた。	224	7	10～ 29
2003	12	15 ～ 16	得意先への挨拶を終えて軽自動車でも市道を走行中、下り坂の左カーブで対向車線にはみ出したので、ハンドルを切ったところ車が斜め左に向いたまま横滑りし、右前輪から道路脇の電柱に激突した。	231	17	10～ 29
2003	12	9 ～ 10	ボックスカルバート（重さ2.2t）を型枠から脱型しているときに、ボックスカルバートを支えていた木製型枠が挫屈したため、近接して停止していたフォークリフトのフォークとボックスカルバートとの間にはさまれた。	391	5	30～ 49

2003	8	1 ～ 2	コンクリート打設のため、停泊中のコンクリートプラント船内で待機していた作業員が見当たらないことに同僚が気づいて探したところ、港と船の渡し板ごと海面に浮上した遺体を発見した。	239	10	10～ 29
2003	8	18 ～ 19	ストックヤード上部にある砂の二次輸送用ベルトコンベヤ付近において、清掃作業中に使用していた竹ぼうきがベルトコンベヤに巻き込まれ、同時に右手および胴体のはさまれた。	224	7	30～ 49
2003	7	12 ～ 13	出張先から帰宅するため国道を横断しようとしたときに、乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
2003	7	16 ～ 17	工場の脱型場において、以前から補修が必要であった脱型台車の駆動用電動機を取替えのため、隣に設置してある緩め機用台車の軌道内（深さ40cm）で作業を行っていたときに、台車が定位置に戻っていないことを発見したクレーン運転士が操作盤を操作して台車を走行させたため台車にひかれた。	229	7	50～ 99
2003	7	13 ～ 14	朝から通常どおりコンクリート二次製品の製造作業を行っていたが、長時間労働等により午後4時30分頃くも膜下出血を発症し倒れた。	911	90	10～ 29
2003	5	9 ～ 10	生コンの製造プラントで、点検のため事務所をでた者が約4時間後にプラント砂貯蔵瓶砂の中で埋もれていたのが発見された。	418	1	1～9
2003	4	17 ～ 18	コンクリート製品（セグメント質量470kg）を反転機で反転し、天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で移動するため、クレーンを操作したときにセグメントが倒れ、反転機とパレットの柵との間にはさまれた。	211	7	50～ 99
2003	4	18 ～ 19	生コンクリート出荷が終了したのち、ミキサー室（2F）にあるバッチャープラント内の清掃を行っていた者が稼働中のバッチャープラント内で発見された。	162	7	10～ 29
		13	ベルトコンベヤ付近にある砂利をスコップでコンベヤの上に載せる作業中			

2003	3	14	に、コンベヤのローラーに右腕を巻き込まれて作業服を強く引っ張られ窒息死した。	224	7	1～9
2003	3	7 ～ 8	7tトラックで高速道路の建設現場へ製品の運搬中、現地近くで道を聞かされたため下り坂の途中でトラックを停車させ、車から降りて通行人に道を尋ねていたところ、停車中のトラックが動き出し前方にいたためひかれた。	221	17	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	河川改修工事において、田畑に農機を乗り入れるための傾斜路に打設する外壁用の生コンを搬入し、やや傾斜した堤防上の道路に止めたミキサー車の後方で打合せをしていたところ、ミキサー車が後退し始めたので運転席にもどろうとしたときに、畑に転落したミキサー車にはさまれた。	221	1	30～ 49
2003	3	14 ～ 15	工場内で建設用梁の型枠にコンクリートを打設する作業中、天井クレーンに専用のつり具でつり下げたコンクリートホッパーの片方の軸が寸動時につり具のフックから外れて落下し、型枠の上に乗りに出して型枠内部のコンクリートの打設状況を確認していた者がホッパーと型枠との間に頭をはさまれた。	372	4	30～ 49
2002	11	3 ～ 4	バラセメント車で走行中、交差点で信号待ちをしていた4 t 車に追突した。	221	17	10～ 29
2002	6	10 ～ 11	事業場内の溜池において、車両系建設機械を用いて溜池の浮き草の除去作業を行っていた同僚から作業内容の説明を受けているときに、顔が急に青くなってしゃがみこみ後ろ向きに池に転落し溺死した。	713	10	50～ 99
2002	7	15 ～ 16	林道復旧工事現場に生コンクリートを運搬するためコンクリートミキサー車で林道（幅3mの砂利道）を走行中、林道の路肩から約7 m下の沢に転落した。	221	17	10～ 29
2002	6	9 ～ 10	構内にある山砂貯蔵ビンの内壁に張り付いた砂を取り除くため、ビンの内部に入り鉄棒により突く作業をしていたところ、張り付いていた砂がはがれて落下し生理めになった。	418	1	10～ 29
		0	建設現場へ生コンを運搬するため林道を走行中、左カーブの所で生コン車			30～

2002	3	1	が横転し運転者が運転席で挟まれ胸部を強打した。	221	17	49
2002	6	13 ~ 14	前週から保管されていたコンクリートブロック3段積み（2列、計6個）上にコンクリートブロック2個（4段目、1個250kg）を専用アタッチメント付フォークリフトで積み上げ、4段積みになったブロック（高さ2m25cm）付近でバランス等を確認していたところ、突然4段目から3段目のブロック等が崩れ下敷きになった。	611	5	10~ 29
2002	5	16 ~ 17	生コン製造プラントタワーの最上部に設置してある骨材（砂利）投入装置のベルトコンベアーの清掃作業を行っていて、ホッパーへの投入シュートに挟まれた。	224	7	1~9
2002	4	11 ~ 12	セメント工場へ4tトラックで原料の受け取りに行き、トラックを止めて運転席より降りようとしたときに運転席（高さ約1m）から転落した。	221	1	1~9
2002	1	14 ~ 15	機械を停止して生コンプラントのミキサー及びホッパー内でミキサー内部のライナー（鉄板）を張り替えていたところ、突然ゲートが閉まり首と肩を挟まれた。	162	7	10~ 29
2002	2	10 ~ 11	スレート生産ラインに設けられたベルトコンベアの下で不良製品（スレート屋根）をくず処理コンベアーに載せていたところ、作業服がベルトコンベアーに取り付けられているテンションローラーの回転軸に巻きつき、作業服の襟で喉を締め付けられて窒息した。	224	7	100 ~ 299
2002	2	11 ~ 12	工場内のストックヤード下部に設けられている引出しコンベア室内で、ベルトコンベアの点検調整作業中にベルトとテールプーリーとの間に巻き込まれた。	224	7	1~9
2002	1	11 ~ 12	工場内で道路用コンクリート二次製品（重量約2t）を移動するため、フォークリフト（最大荷重4t）を使用して持上げる作業中、不安定なため2~3度バランスを取る操作を行っていたときに、合図作業を行っていた者に突然製品が倒れ掛かり頭部を強打した。	222	6	30~ 49

2002	1	9 ～ 10	コンクリートミキサー車で下り坂の緩い右カーブを走行中、土留め用のブ ロックに衝突し、その反動で反対車線のガードレールを突き破り約2m下 の畑に転落した。	221	17	30～ 49
2002	1	10 ～ 11	プレヒーター下部の補修工事で、上部からの落下物による危害防止のため の養生用の床の設置作業中、上部からキャストブル（不定形耐火物）が落 下してきて頭部に激突した。	418	4	50～ 99
2001	11	13 ～ 14	工場内の砂利投入用ホッパーのピットに入りホッパー補修作業を行ってい たときに、砂利運搬業者がダンプトラックで砂利を運んできてホッパー下 部にある搬送用ベルトコンベアの起動しホッパーに砂利を投入したとこ ろ、異常があったのでピット内を調べたところ搬送用ベルトコンベアに挟 まれている作業者を発見した。	224	7	10～ 29
2001	11	14 ～ 15	3. 5tのフォークリフトで型枠に生コンクリートを棒状のバイブレーター を用いて型枠となじませる作業を行うため、鉄柱部分にあるコンセントに プラグを差し込もうとしていたときにフォークリフトが前進してきて鉄柱 とフォークリフトとの間に挟まれた。	222	7	10～ 29
2001	10	13 ～ 14	橋梁架設のための「ガーダー」をつなぎあわせる作業でクレーンで「ガー ダー」を吊り上げジョイント部を合せる(目板をバールでこじ開ける)作業 を行っていたところ、吊り込んでいたガーダー(質量約4t)が移動したため 固定されていたガーダーとの間に頭部をはさまれた。	611	7	10～ 29
2001	8	14 ～ 15	コンクリート製集水桝の鋼製型枠の準備作業で、質量約153Kgの鋼製型枠 を開いたところ、支えきれず約120cm後方に置かれた鋼製型枠との間に挟 まれた。	521	7	30～ 49
2001	10	14 ～ 15	工場内でコンクリートブロックの製造中に成形機の中を覗き込んだとき、 体の一部が作動スイッチに触れたため横から移動してきた型枠と機械の支 柱との間に頭と頸部をはさまれた。	169	7	1～9
2001	10	15 ～	4tミキサー車を再生骨材製造ピット進入用のスロープ(勾配10度)の中央付 近に停車させ、スロープ下に停めてあった11tミキサー車へシューターを 使って残生コンの移替え作業を行う準備作業を行っていたときに、バラン	418	1	10～

		16	スを崩してスロープ端部から高さ3.2m下のコンクリートの地面に墜落した。			29
2001	10	18 ～ 19	屋外製品置場に、コンクリート製梁材をクレーンで吊り降ろし、玉掛用の金具を梁材から取り外す作業中に、自立させてあった梁材が突如倒れてきたため逃げ遅れて梁材と隣接して置かれていた別の梁材との間に下半身を挟まれた。	611	5	30～ 49
2001	9	13 ～ 14	ヒューム管の製造に使用した型枠を格納するため転がしていたときに、型枠から飛び出ていたボルトに右手の手袋が引っかかってヒューム管と一緒に転がるようにまきこまれ、頭部及び胸部を強打した。	391	7	50～ 99
2001	9	15 ～ 16	生コン用ミキサー内部の洗浄作業で、ミキサーのアームを回転させながらミキサー内部をホースの水で洗浄していたところ、誤って点検口からミキサー内部に転落して回転中のアームに巻き込まれ、放出口よりコンクリートホッパーを通過し1階の投入ホッパーに落下した。	162	7	1～9
2001	8	14 ～ 15	鉄骨スレート造工場の一部が台風で雨漏りするようになったので、波型スレート屋根上で修理作業中に、スレートを踏み破り約6.2m下の工場内のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2001	5	10 ～ 11	4tミキサー車に生コンクリートを積んで県道を走行中、スピードを出しすぎて右カーブを曲がりきれずに、道路脇のあぜ道に横転した。	221	17	10～ 29
2001	6	14 ～ 15	トレーラーで走行中、前方の軽自動車を追い越そうとして左車線へ急ハンドルを切ったときに運転操作を誤り、中央分離帯のガイドレールに激突して車外に投げ出された。	221	17	10～ 29
2001	6	10 ～ 11	顧客からの連絡を受け敷地内に置いてあるヒューム管の在庫確認を行って、事務所へ戻る途中に生コンクリートを型に流し入れる作業を行っていたフォークリフトにひかれた。	222	7	10～ 29
2001	5	14	コンクリート製造プラントの山砂用貯蔵槽の内部に付着した砂のかきだし作業を行っていたところ、排出される砂の動きに巻き込まれ全身が埋没し	418	1	1～9

		15	た。			
2001	5	15 ～ 16	小型U字溝製造ラインにおい、プッシャーと呼ばれるコンベヤーで運ばれる型枠を水平に押し出して移動させる機械(約75cm駆動。)と作業場建物の柱との間に腹部をはさまれた。	169	7	50～ 99
2001	4	13 ～ 14	パイルの成型・脱型ラインにおいてパイル型枠の掃除を行っていたが、型枠はチェーンコンベアーで型枠反転機まで搬送中であったため、これを追って機械のところで自動停止したときに掃除していたときに、同僚がスイッチを入れたため機械のアームと型枠との間に頸部を挟まれた。	169	7	10～ 29
2001	4	15 ～ 16	パレット上に積み上げられた石綿袋(1袋約50kg)45袋の最上部分(高さ215cm)からバランスを失って落下した。	611	1	10～ 29
2001	4	7 ～ 8	生コン分離プラントの始業点検中、プラントを構成する機械の一部であるスクリーコンベヤーに巻込まれた。	224	7	1～9
2001	3	10 ～ 11	生コンクリート製造用ミキサー内壁の摩耗防止用の内貼(ライナー)の取替えて試運転を行うときに、生コン搬出口(ゲート)の扉が閉まらないのでゲートに上半身を突っ込んで調整作業していたところ、突然閉まったゲートに頭部を挟まれた。	162	7	50～ 99
2001	2	18 ～ 19	ガソリンスタンドの集金に行った帰り、横断歩道のない場所を徒歩で横切っていたときに、通りかかった軽トラックにはねられた。	231	17	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	フォークリフト(最大積載15t)で工場内の通路を走行中、T字路を右折する際に「ゴトン」という衝撃を感じたので、停車して後方を見たところ作業者が倒れていた。	222	6	10～ 29
2001	1	9 ～ 10	海砂を貯蔵しているヤードにおいて、機械を作動させても砂が凍って投入ゲートに落ちていかなかったため、ゲートの下方から砂をつつき流し出すとしていたときに海砂が落下して生き埋めになった。	523	1	10～ 29

2001	1	9 ~ 10	ブロック成型工程の最終ラインに設置のローダー付ラック供給装置(製品を鋼製パレット上に並べ搬送する自動装置)の故障の修理作業が終了したので、ライン全体を復帰させたがブロック成型機本体が稼働しないため、成型機辺りを点検したときに、成型機の下部のエレベーター式脱型枠と装置枠との間に頭部を挟まれた。	169	7	10~ 29
2001	1	14 ~ 15	生コンの砂利、砂を再生するために分離する円筒状の機械で、付着したコンクリートを筒の内側からはつるため中に入ろうとしたときに、起動ボタンに触れたため筒が回転し身体を挟まれた。	161	7	30~ 49
2001	1	0 ~ 1	生コンクリートを搬送するためコンクリートミキサー車で県道を走行中、道路右側のガードレールを突き破り約10m下の山林の斜面に転落した。	221	17	10~ 29
2000	8	11 ~ 12	林道開設工事現場に向かっていたコンクリートミキサー車が、途中の林道で車両後部を谷側に向け切り替えし動作を行っていたときに運転を誤って17m下の谷底に転落した。	221	17	30~ 49
2000	8	10 ~ 11	ミキサー車を洗うときに出る汚水処理する沈殿槽(深さ約3m)の中で攪拌機の羽根に挟まって死亡しているのを同僚が発見した。	162	7	10~ 29
2000	5	8 ~ 9	原料ホッパー(高さ5.2m、幅3.6m)内のスラグのかきおとし作業を行っていたときに、ホッパー下のベルトコンベアーを運転していたためスラグがベルトコンベアーで搬出されたためスラグとともにホッパー出口に吸い込まれ、さらにホッパーの出口とベルトコンベアーに挟まれた。	523	5	10~ 29
2000	3	6 ~ 7	生コンクリート製造プラントの始業前点検作業中に、高さ約23mのプラント屋上から転落した。	418	1	50~ 99
2000	10	2 ~ 3	セメントの原料の石灰石を運搬するベルトコンベアーの監視作業に従事していた者が行方不明となったので探していたところ石灰石置場に埋もれているのを発見した。	414	1	50~ 99

2000	9	14 ～ 15	4tトラックでセメントを運搬入のため国道を走行中、カーブを曲がりきれず対向車線に飛び出し横転した。	221	17	50～ 99
2000	8	10 ～ 11	工場内のホイスト式天井クレーンのガータの取り替え工事で、ガータの撤去後、トロリ線への接続作業を行なうときに電源の開路を怠ったため、交流200Vのキャプタイヤ線に触れて感電し、約6mの高さの移動はしご上から転落した。	351	13	30～ 49
2000	9	14 ～ 15	市道拡幅工事現場において、道路(約2.7m)からコンクリートミキサー車で約2.5m下の掘削底にコンクリートを打設中に、路肩が崩壊し、ミキサー車を車外で操作していた者がミキサー車とともに転落した。	711	5	30～ 49
2000	9	11 ～ 12	駐車していた生コンクリート車の生コンを入れるタンクと手すりの間に挟まれていたのが発見された。	221	7	10～ 29
2000	5	8 ～ 9	始業時間になっても持ち場に来ないため同僚らが捜したところ、工場裏手の沈殿池(コンクリート型枠洗浄後の排水処理用)に沈んでいたのが発見された。	418	10	10～ 29
2000	8	13 ～ 14	生コンプラントのコルゲートサイロ(直径7m高さ8.5m)から砂が供給されなくなったので2名で確認を行ったところ、砂が不足していたため補給の手配を指示して自分はサイロ内に降りて行き、崩壊した砂(約1m)に埋った。	523	5	30～ 49
2000	6	15 ～ 16	コンクリート混合作業場において、コンクリートミキサーの羽根の取り換え作業をコンクリート投下口で行っていたときにミキサーの投下口の蓋が閉まり、蓋に挟まれた。	162	7	50～ 99
2000	12	8 ～ 9	生コン工場において、採石引込み用のベルトコンベアーの下にこぼれた石をスコップでベルト上に載せる作業を行っていて、プーリーとベルトの部分に巻き込まれた。	224	7	30～ 49
		13	残滓コンクリート水溶液を砂利、砂及び水等に分離する機械のドラムの根			

2000	12	～	詰まりを除去する作業で、昼食後作業を再開したときに停止していたドラムが回転し、巻き込まれた。	169	7	1～9
2000	7	～	13 道路舗装用コンクリートブロックの加工工場で、反転機(コンクリートブ 14 ロックを裏返すための機械)の整備中に機械が作動し、左腕を挟まれて切 断した。	169	7	1～9
2000	6	7 ～ 8	直径2.5mのミキサーで1.5?の泥コンを製造する工程の土、水を混合する作業中に土とともにミキサーの中に落ち、窒息死した。	418	10	10～ 29
2000	2	14 ～ 15	生コン製造プラントの貯蔵ビンの中で砂の上に立ちながら内壁を清掃していたときに、プラント2階にある操作室で出荷係がミキサー車に製品を積み込むためにボタン操作を行ったため、貯蔵ビンに溜まっていた砂が計量ビンへと移動し、蟻地獄となって砂に埋もれた。	418	1	30～ 49
2000	3	14 ～ 15	生コン製造プラントのメンテナンス作業で、フォークリフト(2.5t)に木製パレットを乗せてその上に乗り1.45m位パレットを上げて作業を行っているときに墜落した。	222	1	10～ 29
2000	9	11 ～ 12	橋梁のコンクリート打設作業現場において、コンクリートポンプ車のホッパー横のステップ上にいた生コンクリート試験員がバランスを崩すか、あるいは足を滑らせて右足をホッパーの羽根に巻き込まれた。	149	7	1～9
2000	8	16 ～ 17	コンクリートプラントの強制2軸ミキサー(砂・水等を混合し生コンを製造する機械)の内部を清掃作業中、機械を停止せずに作業していたため回転軸に巻き込まれた。	162	7	10～ 29
2000	5	6 ～ 7	セメント板の加熱処理を行う蒸煮器の蓋用パッキンの交換作業を行って蓋を閉めて約30分経過後、再び蓋を開こうとしたときに蓋が飛び出し、蓋と蓋のストッパー(緩衝材)との間にはさまれた。	312	7	30～ 49
2000	7	13 ～ 14	2.8tの天井クレーンでストックヤードのヒューム管をトラックに積み込む作業中に、集電装置がトロリ線から外れクレーンが停止したので様子を見ようと運転席の外に出たときに約4m下のアスファルト道路に墜落し	211	1	50～ 99

			た。			
2000	10	8 ～ 9	天井クレーンで鉄筋(約720kg)を作業台の上に置いたところ、鉄筋の重みで作業台が倒れたため、その脇で鉄筋組立の作業をしていた者に鉄筋が当たった。	379	5	10～ 29
2000	3	16 ～ 17	コンクリート製L字型擁壁を鉄製の型枠より脱型するため、型枠に長さ70cm、重量約2kgの鉄棒を差し込みチェーンを緩めようと鉄棒を引いたところ、緩めた反動で鉄棒が顔面に激突した。	364	6	1～9
2000	3	10 ～ 11	作業現場に生コンを運搬するため、ドラグショベルのバケットに生コン車シューターから生コンを投入していて、車後部のステップに上がり、シューターに残った生コンを生コン車運転手が掻き落とす作業をしていたときに、ショベル運転手が立ち上がって生コンの残量を確認し座席に座ったところ、防寒服が操作レバーに引っ掛かったためショベルアームが左に旋回し、ショベルバケットと生コン車との間に胸を挟まれた。	141	7	10～ 29
1999	12	19 ～ 20	バッチャープラント3階のミキサー室で、ミキサーの回転羽根及び周囲の壁に付着したコンクリートのカスを除去するためにジェットタガネを使用して清掃中、ジェットタガネのジョイント部分がホースから外れてミキサー内に落ちたため身を乗り出して拾おうとしたときに誤ってミキサーから6m下のホッパーに転落した。	162	1	50～ 99
1999	11	18 ～ 19	生コンクリート製造工場において、作業を終了したバッチャープラント操作員が同僚の姿が見えなかったので生コン骨材引出しコンベアーが設置されている地下ピットに探しに行ったところ、コンベア上に倒れ、材料ホッパーのゲート部に挟まれているのを発見した。	224	7	30～ 49
1999	11	13 ～ 14	生コンクリート工場において、高さ約8メートルの砂ビン内の砂の残量を確認していて砂の中に生埋めとなった。	418	1	10～ 29
1999	11	9 ～	製品であるコンクリートブロックをフォークリフトで資材置場まで運搬し、既に積まれていたブロックの上に載せるときに、ブロックとブロックの間に挟み込む紐の状態を確認しようとしてエンジンを切らずにヘッド	222	7	50～

		10	ガードとマストの間から身を乗り出したときにマストが運転席側に倒れ、ヘッドガードとマストとの間で胸部を挟まれた。			99
1999	9	0 ～ 1	昼の休憩時間中、工場内の一角に設けた休憩所で、漏電していた扇風機(100V)の脚をつかんで倒れていた。	169	13	50～ 99
1999	10	8 ～ 9	工場から工事現場まで生コンクリートを運搬するため、コンクリートミキサー車で出発し、工場より200メートルほど南に走行した県道上から田んぼに突っ込んだ。	221	17	1～9
1999	10	14 ～ 15	フォークリフトによる建築資材のトレーラーへの積込作業が終了し荷台から降りるのに、フォークリフトのフォークに差し込んだパレットに乗ったときに、フォークリフト運転手がフォークリフトを後進したため、パレットから2.6メートル下のアスファルト舗装面に墜落した。	222	1	10～ 29
1999	9	14 ～ 15	傾斜がおおよそ4度のところにトラクターショベルを停止させ運転台から車体上へ移動しようとしたところ、トラクターショベルが動き始め12.6m走行した地点でトラクターショベルの左前輪にひかれた。	141	7	30～ 49
1999	8	11 ～ 12	大改修工事に使用する護岸ブロック(重さ180kg)をフォークリフトで2重6段(2メートル超)に積み重ねたのち、補助者がつり補助用具(鉄棒)をブロックからはずそうと隣の同じように積まれたところを登って作業をしていたときに、その部分が崩れブロックの下敷きになった。	611	5	10～ 29
1999	8	0 ～ 1	排水処理プラント場で、生コン車のドラム内の洗浄排液から砂と石を選別する分級機(径1.6mの円筒状回転体)の運転、監視業務中に機械に体を挟まれた。	169	7	1～9
1999	8	16 ～ 17	男子便所の出入口に倒れていた者を同じ便所から出てきた同僚が発見し、救急車で病院に搬送したが、頭部打撲による頭蓋骨骨折等で死亡した。	162	1	300 ～ 499
1999	8	14	骨材用の砂貯蔵サイロ内で固まった砂の均し作業を行っていたところ、内壁付近に堆積していた砂が崩れ、生き埋めとなった。(なお、被災者の救	523	5	10～

		15	助にあたった代表者もサイロ内で生き埋めとなって死亡した。)			29
1999	8	11 ～ 12	クレーン清掃作業において、1機目の清掃が完了した後そのクレーンを移動するために分電盤のスイッチを入れたまま清掃を続けたトロリー線(200V, 200A)に触れ感電した。	211	13	100 ～ 299
1999	7	15 ～ 16	整備工場内において、ミキサー車のタイヤを新しい物に交換するため、組み上がったタイヤ・ホイールセットに空気圧縮機を用いて空気を充填していたところ、タイヤのチューブが破裂し、その際に何らかの物体が飛来して首を直撃した。	379	15	10～ 29
1999	7	6 ～ 7	コンクリートプラントの砂利ホッパーが詰まったため、ホッパーの流量を調整するシリンダーの分解補修をしていたときに、ホッパー内の砂と共に混練機に落ち、巻き込まれた。	162	7	10～ 29
1999	4	14 ～ 15	PC板製造用の生コンをホッパーに入れてフォークリフトで運搬中、構内の通路上にいた者をひいた。	222	6	50～ 99
1999	6	15 ～ 16	フォークリフトでコンクリート2次製品のVS側溝を2段積んだままの状態 で工場から製品置場に運搬し、同型の側溝を3段に積み重ねるため、一旦 フォークリフトから降りて一番下の側溝の4隅にあて木を置いていたとき に、フォークリフトが動き出してフォークリフトと側溝との間に挟ま れた。	222	7	50～ 99
1999	6	5 ～ 6	半導体原料を加熱混合攪拌する装置の回転軸に、作業衣の背部が巻き込まれたため、作業衣で首を締め付けられ窒息した。	121	7	1000 ～ 9999
1999	5	14 ～ 15	コンクリート製品の製造ラインの打ち込み装置の清掃を行っていて、コンクリートを押し出すスクリュウに足を巻き込まれた。	169	7	10～ 29
1999	4	15	コンクリート製造プラント沈殿槽のところで、納品されたコンピューターの包装用ダンボール箱を焼却する作業に従事していて、沈殿槽に隣接した	711	1	30～

		16	沈殿池に転落し、溺死していた。			49
1999	3	9 ～ 10	セメント工場の配合場横の塩ビ配管の漏水修理のため、アルミ製はしごをシャッター扉収納部の突き出し部分に立て掛けて作業を行っていたときに、2. 85メートル下のコンクリート床に墜落した。	418	1	10～ 29
1999	3	14 ～ 15	コンクリートブロック成型機のプレスが上昇するときに、首及び右上腕部をプレスとフレームとの間に挟まれた。	169	7	10～ 29
1999	3	20 ～ 21	アンローダを使用して珪石を船から下ろす作業中、運転の見習いにくいていた者が運転室から出たのち、故障していたホッパーの状態を見に来ていた作業者が叫び声を聞いてアンローダを見に行くと、踊り場に倒れていた。	211	6	100 ～ 299
1999	2	15 ～ 16	コンクリート二次製品用の鉄筋を倉庫内に移動させるため床上操作式天上クレーンのフックに掛けて吊上げ移動中、鉄筋を結束していた番線のフックに掛かっている箇所が破断したため落下した鉄筋の下敷きになった。	379	4	30～ 49
1999	2	15 ～ 16	ベルトコンベア一次中継地点で、ベルトコンベアを運転したままコンベアベルトとプーリー・ローラーの摩耗度を調べていたときに、右手ゴム手袋がコンベアベルトに触れて巻き込まれた。	224	7	10～ 29
1999	1	8 ～ 9	2tトラックで空洞コンクリートブロックを現場に配達する途中、国道の交差点で民家の隣のブロック塀及びプロパンガスボンベに激突したためプロパンガスボンベが爆発し、トラック及び民家2棟及びアパートの一部が炎上した。	221	17	1～9
1999	1	10 ～ 11	コンクリートミキサーで清掃作業を行っていたところ、操作盤の押ボタンの修理に来た電気業者が誤って「ミキサー入」ボタンを押下したため、ミキサーが半回転しこれに足が巻き込まれた。	162	7	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	コンクリートミキサー内で清掃作業中、同僚労働者が操作盤のボタンを押したため攪拌羽根に巻き込まれ全身打撲。	169	7	10～ 29
		11	工事に使用するパワーショベルを10tトラックに載せて現場に運んで来て			

1999	1	～	トラックから降ろしていたときに、誤ってショベルとともに河川に転落	142	1	10～
		12	し、ショベルの下敷きになった。			29
1999	1	9	屋外製品置場でコンクリート製のビル外壁板をブラシで水洗いするた	372	4	30～
		～	め、10t橋型クレーンで吊っていたときにフックを掛けたボルトが破断			
		10	し、板が倒れてその下敷きになった。			49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。